

国際人権NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」日本代表

土井 香苗

エリート弁護士より人権保護



弁護士になるのもいいですね。まあ、でも、人生は

桜陰中・高から東大法学部
に現役合格。在学中に史上最
年少(当時)で司法試験に合
格し、5年間の弁護士活動の
後、米ニューヨーク大学で博
士号を取得した。目もくらむ
ような経歴だが、現職は都内
の私大の小さな1室を間借り
したNGO(非政府組織)の
代表。スタッフはわずか2人
だ。

「そうですね。人生が
2度3度あれば、有名法律事
務所に入って、M&Aとかで
年間何千万円も稼ぐエリート
1回きりなので…。昔から難
民保護をやりたいだったのでこ
ういう方向に進んだだけみた
いな…。エヘヘ」

華麗な経歴に萎縮していた
記者を拍子抜けさせるような
気さくな受け答え。だが、そ
の行動力はやはり並じやない。
国際人権NGO「ヒュー
マン・ライツ・ウォッチ(HR
W)」は「アムネスティ」と
比肩する世界最大の人権団体

だが、その日本支部
は彼女が自ら立ち上
げたものだという。
HRWが入手する人権侵害
情報は、その速さ、質、量とも
に世界最高。弾圧する側への
政治的圧力によって事態を改
善することを目指す、先進国
政府に国際政策を提言するシ
ンクタンクの機能も持つ。世
界80カ国に2500人の職員を
擁し、ニューヨーク本部はエ
ンパイアステイトビル2フロアを占有しているという。
「私がいたニューヨーク大
やハーバード大、コロンビア
大など全米の有名大から毎年
1人ずつしか採用されないほ
ど、優秀な人材が集まってい
ます。私は国際交流基金のバ
イパスを使って1年間滞り込
むことができました。人権へ
の使命感? ないといったら
ウソになりますけど、私の動
機は単に人権侵害に遭ってい
る人たちがものすごく気の毒
だっただけ。日本で難民
がすごく不当に扱われている
現実にも、同情と同時に怒り
がわいてくるんですよ」

人への愛



とい・かなえ 1975年8月22日、横浜
市生まれ、34歳。国際人権NGOヒューマン
・ライツ・ウォッチ日本代表、弁護士。
96年、大学3年時に司法試験に合格、2
000年に弁護士登録。05年、ニューヨ
ーク大ロースクールに留学。翌年、HR
W本部フェローとして1年間勤務。07年
から現職。既婚。子供なし。

熱く

厚く



人への愛は、自身の生い立ちも少なからず影響しているようだ。幼少時から東大入学後まで「度を越した八つ当たり同然」に勉強を強いた母に強烈な恨みを抱き続け、司法試験直前についに家出。現在のキャリアアはその母の熱心な教育方針のたまものといえなくもないが、いずれにしてもそれ以降、母娘はほとんど会っていない。

「難民がすぐく不当な扱い 何でワタシの国ってこんななんだ」

「大学に入ってプチ切れちゃった。二度と勉強するかってね。でも母親はそう思っていないくて、さらに対立が激し

くなつて家出したら、パカッとして人生が明るくなったんです。それでアフリカに行ったり、昔からやりたかったことをやっちゃった。そのまんま、やりたい仕事をやっている。カンボジアで数十人のウイグル難民が中国に強制送還されそうになりに強制的に送還されそうになりに、カンボジア政府は強制送還を決定。おそらく難民たちは収容所で拷問や処刑の憂き目に遭っているのだらう。厚い壁は日本政府だけではない。資金(寄付)の調達も「日本代表の重要な仕事だ。」「少額の寄付でも、継続してやってもえたら、それはすごく意味のあることです。年間1万円で2000人が寄付してくれば2000万円。ただ、スタッフを4、5人に増やしたいと思うと、年間4000万円は集めなくてはいいません。やはり、企業や団体から数百万円単位の寄付がないと難しいですよ。悲観的ではないけど簡単でもないぞ、と思っています」

「大学に入ってプチ切れちゃった。二度と勉強するかってね。でも母親はそう思っていないくて、さらに対立が激し

明日(13日)は、声優に初挑戦「グラビアアイドルの川村ゆきえさん

ペン・小川健 カメラ・瀧誠四郎 レイアウト・渋谷伸彦

Yukan Fuji Jan 13, 2010 p.19